



**コンセプト** 自然と人に寄り添う建築を目指して

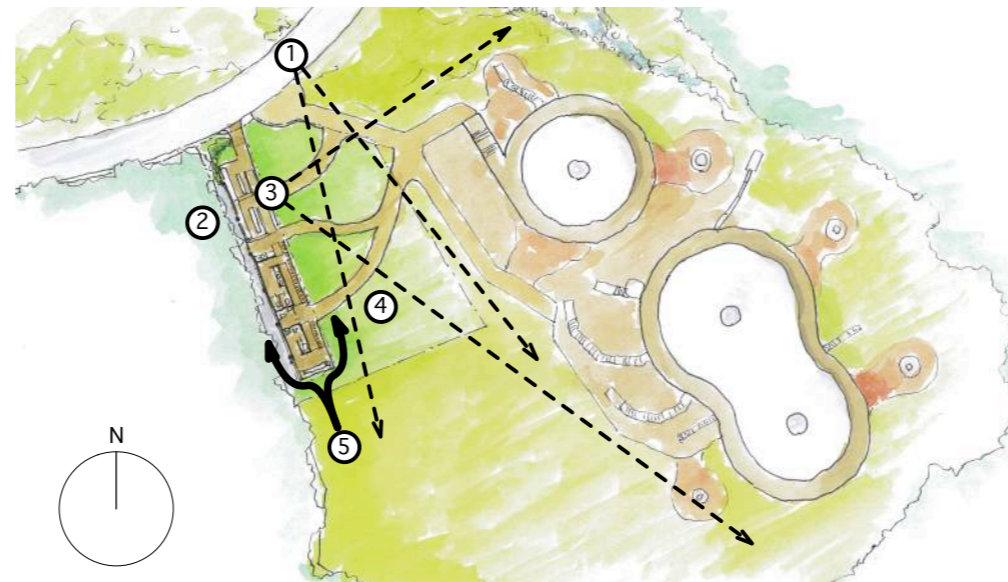
中城公園の自然共生エリアの中に、軽やかにスロープした膜の屋根を懸ける。屋根は太陽の熱を遮り光を柔らかく拡散させ屋根の下には木漏れ日のトイレ空間と雨端の様におおらかに人々を受け入れる軒下休憩スペースが生まれる。地形の勾配にあわせ緩やかに傾斜した屋根は、空気と水に方向性を与える。空気は屋根の勾配に沿って登り、水は重力に従って屋根を下る。中城公園の豊かな自然の中に凜と佇む人と自然の緩衝空間を生み出す。トイレは土が隆起しその上を竹細工の天井が覆った様なイメージの自然光が程よく室内を照らす、清潔感と安心感が共存する心地よい排泄空間となる。屋根の下は沖縄の建築的



文化である雨端の空間性を踏襲する現代的な空間でもある。遊具側と視覚的にも物理的にも遮るものがない、日中の直射光から人々を守り、柔らかな間接光の広がる、そよ風吹き抜ける休憩スペースは子供達を見守る親たちをそっと受け入れ、親たちに駆け寄る子供達を優しく迎え入れる。子供達の声でいつも賑やかな南遊具エリアの片隅でいつも子供達を見守る自然・地形・子供・親などの遊具広場を利用する人々に寄り添う休憩トイレ建築である。

**配置計画** 配置計画は次の5つの視点から計画を行った。

- ① 公園路から極力死角をつくらず、防犯性に配慮した配置
- ② 多数の利用者が想定される→可能な限り沢山の人が休憩できるスペース確保。建築が生み出す帯状の影もまた休憩スペースとなる
- ③ 見守りの親への配慮→休憩スペースから遊具スペースへの視認性の確保
- ④ 芝生広場の確保→利用者や将来の公園計画に対して自由度を持たせる
- ⑤ 土砂災害警戒区域→想定土石流方向に対し見附面積最小化+RC防波堤(ベンチ)設置



**心地よい見守り空間へ**

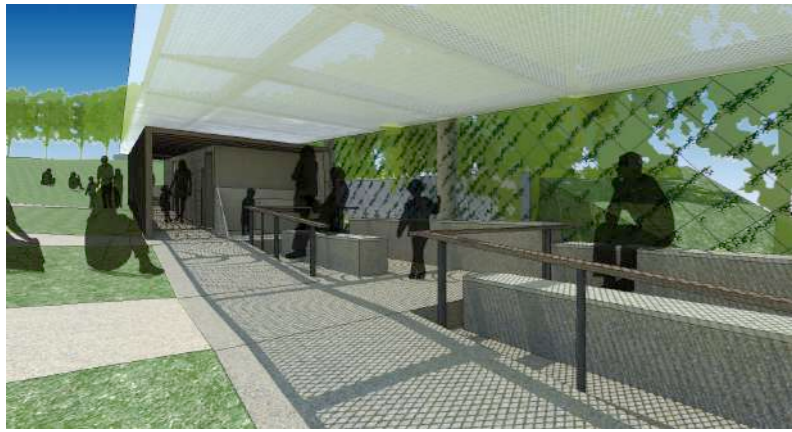
現況の人の動きから見てきたこと



広場を挟んで遊具公園と向かい合う建築。互いの視認性確保。遊具と同じ膜屋根が景観の統一感をもたらす。



休憩所から遊具方向を望むイメージ。現況の敷地の使われ方と無理なくフィットする建築計画。



膜屋根とエキスパンドメタルが生み出す木漏れ日空間の休憩スペースを望む。



トイレ内部にも木漏れ日空間が広がり、柔らかな光に包まれる。給気窓はミンサー文様。



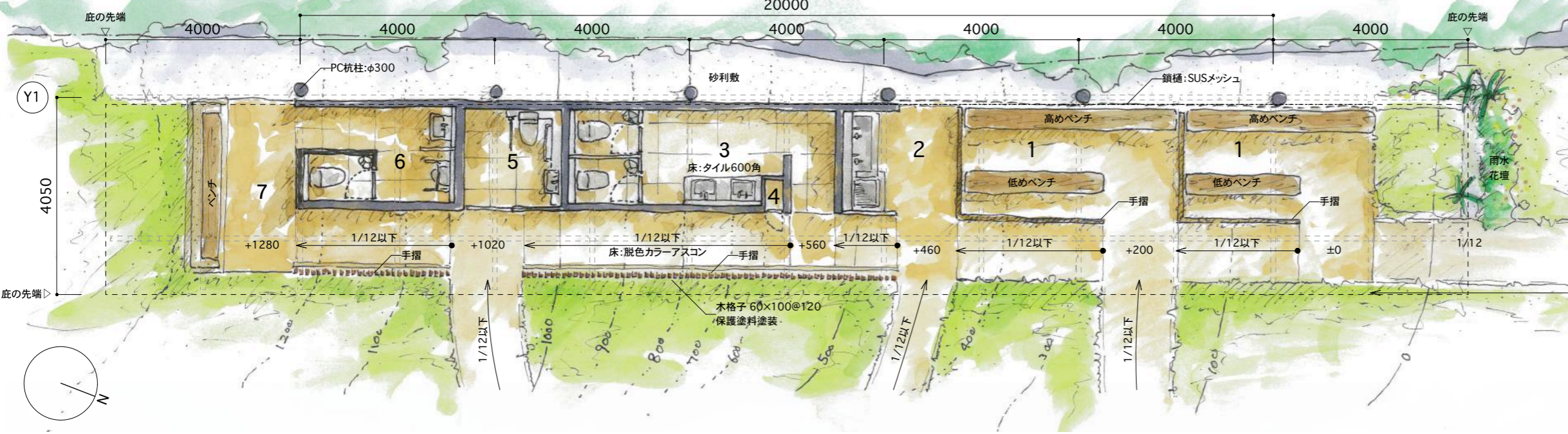
遊具広場側を無柱とし休憩エリア・広場・遊具公園と空間がシームレスに繋がってゆく。

### 屋根材:ETFEフィルム膜材

フッ素樹脂をフィルム状に圧延したもので高い耐久性と透明性が特長の紫外線の影響を受けにくく汚れにくい膜材。約440g/m<sup>2</sup>と非常に軽量で耐震性を向上させ、変形追従性に優れガラスのように割れて破片が飛び散ることもなく安全な内部空間を実現する。膜の種類(透明・梨地・ホワイト)により可視光線/日射/紫外線の透過率を選択することができる人の体と心に優しい明るさを創出する。また、遊具公園の膜遊具との景観的調和及び一体感をもたらす。

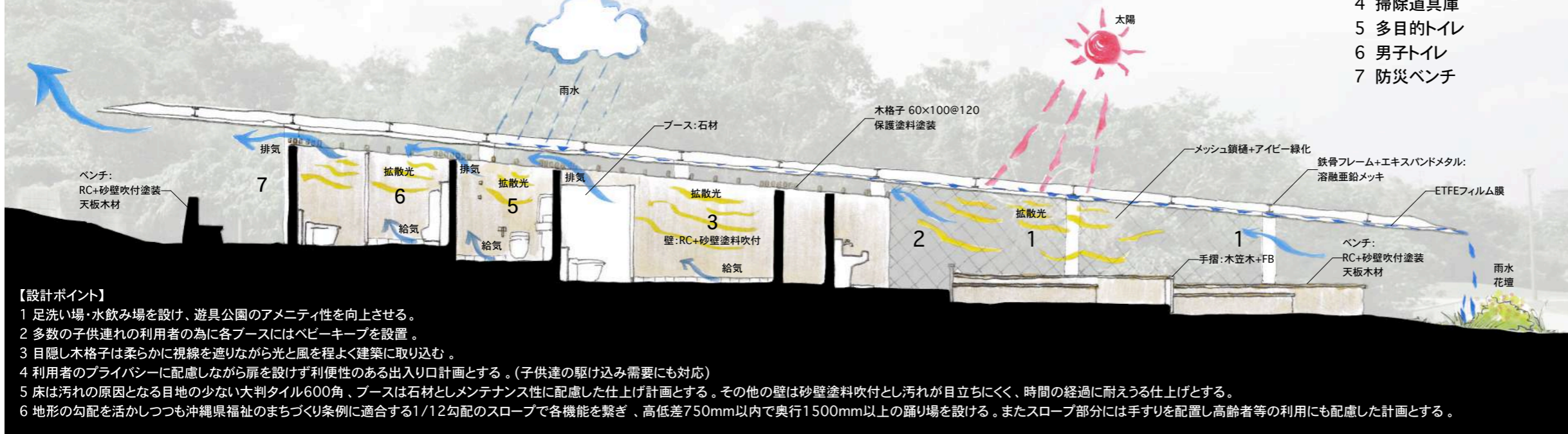
### 平面図

Scale=1/100



### 断面図

Scale=1/100



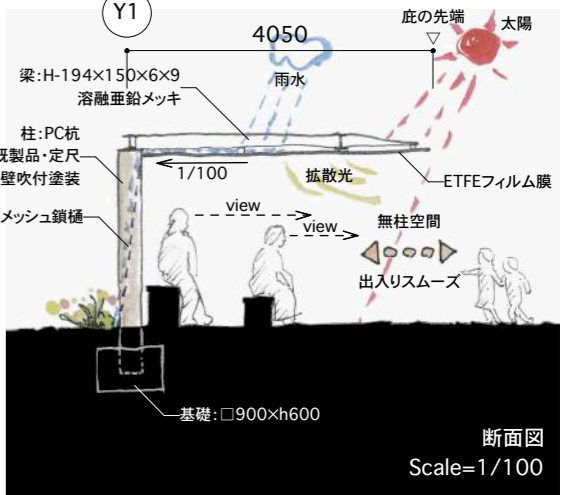
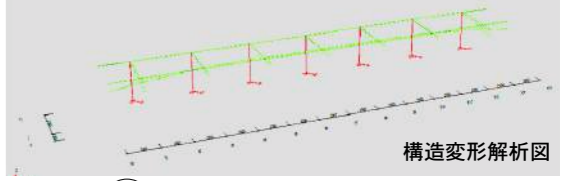
【設計ポイント】  
 1 足洗い場・水飲み場を設け、遊具公園のアメニティ性を向上させる。  
 2 多数の子供連れの利用者の為に各ブースにはベビーキープを設置。  
 3 目隠し木格子は柔らかに視線を遮りながら光と風を程よく建築に取り込む。  
 4 利用者のプライバシーに配慮しながら扉を設けず利便性のある出入口計画とする。(子供達の駆け込み需要にも対応)  
 5 床は汚れの原因となる目地の少ない大判タイル600角、ブースは石材としメンテナンス性に配慮した仕上げ計画とする。その他の壁は砂壁塗料吹付とし汚れが目立ちにくく、時間の経過に耐える仕上げとする。  
 6 地形の勾配を活かしつつも沖縄県福祉のまちづくり条例に適合する1/12勾配のスロープで各機能を繋ぎ、高低差750mm以内で奥行1500mm以上の踊り場を設ける。またスロープ部分には手すりを配置し高齢者等の利用にも配慮した計画とする。



海外のETFE事例(2013) エキスパンドメタルの影

### 構造計画

構造体は同一断面の連続で構成。柱は既製品の定尺PC杭を使用する。鉄骨梁は部材メンバーを1種類に限定することで工期短縮及び工事費の圧縮を行う。屋根面のエキスパンドメタルは面剛性を確保し、かつ中城の日用品として古来より活用されていた竹細工を彷彿させる陰影が木漏れ日の様な影を生み出す。鉄骨部材は全て溶融亜鉛メッキを行い耐候性に配慮する。下記、変形解析図は構造計算にて風・地震荷重に対して柱が座屈せず、片持ち梁の変位が許容範囲内に収まることを確認したモデルである。膜屋根にて軽量化することで4mの跳出し無柱空間を実現する。



断面図 Scale=1/100